

高気圧酸素が著効した腸腰筋膿瘍の一例

瀬戸内徳州会病院 瀬戸上 智行 原 純 北原 淳司

症例) 79歳男性

主訴) 左下腹部痛

現病歴)

もともと脳梗塞後、認知症で当院療養病棟に8/7より社会的入院していた。ADL杖歩行程度、

12/5腹痛コールあり「2日前より左の下腹部痛い、動くといけない。」熱なし、食事とっている。便秘気味5日に1回程度。下痢、嘔吐なし。外傷既往なし。

既往歴) 脳梗塞 心房細動、肺結核、認知症

現症)

Kt 36.7度

腹部 平坦 軟 グル音正常 左腸骨上に腫瘤触知、CVAtenderness (－) 肝脾腫なし。

SLR 左60度くらいで痛み

Labo data)

WBC5600 μ /l CRP4.43mg/dl

経過)

12/5 腹部造影 CT で腸腰筋膿瘍認め以下のような治療、評価行った。

12/19～12/29 高気圧酸素治療 連日9回 1/4～1/16 隔日6回

12/5～12/18 PIPC2g×2/日 ISP(アミノグリコシド)400mg×1/日開始

12/18～1/7 CMZ1g×3/日 1/7～オラセフ (cefuroxime) 250mg×4 内服開始

CT 12/18 12/25 1/7

まとめ)

抗生剤で難治性の腸腰筋膿瘍で高気圧酸素が著効した例を報告する。